

内浦公民館講座

季節のお手当教室～春のセルフケア～

令和5年3月25日（土）



雪鍋などの材料と準備物写真



番茶シップを使ってリラックス

内浦公民館 2階調理実習室と和室を使って【季節のお手当教室】を開催しました。講師は山崎慶子^{やまさきのりこ}さん。春に向けて体に良い食材や今の時期にあった体の整え方を教わりました。体に良い雪鍋の作り方を教えてもらった後、番茶シップで目のケアを行いました。

内浦公民館講座

スマホの使い方教室Ⅳ（3回シリーズ）最終日

令和5年3月28日（火）



身近な疑問や操作方法など教えてもらいます



内浦公民館 1階会議室でスマホの使い方教室Ⅳを開催しました。講師は副田宗義^{そえだむねよし}さんと堀口昌克^{ほりぐちまさかつ}さん。年度末総決算と題してアプリのインストール、アカウント設定などのおさらいをしました。

*スマホ講座は今後も継続して開催します！

講師の副田さんは『今の社会のデジタル化が進んでいる。デジタル社会に高齢者やデジタル弱者がついていけるように、お手伝いを続けていきたい』と話してくださいました。日常生活でも欠かせないスマホの使い方を、これからもみんなで一緒に学んでいきましょう^^♪。皆さんもぜひ、軽い気持ちでスマホ講座にご参加ください。お待ちしております！

～内浦公民館講座のお知らせ～

★元気あっぷ生き生き倶楽部（毎月第1・第3火曜日）13:30~15:00

【4月の開催日】 4月18日（火）

【5月の開催日】 5月2日・5月16日（火）

参加することで、心も体も元気になります。楽しみながら、運動を続けましょう！興味のある方は一度見学に来られてはいかがでしょうか？皆さんお気軽にご参加ください。お待ちしております。

内浦公民館だより

令和5年4月5日発行

(2023) <vol.115>

Artfull うちうら

[発行]
内浦公民館
〒919-2351
高浜町山中 104-4-2
TEL.0770-76-2007
FAX.0770-76-2008
E-mail
Uchiura_c.c.@town.takahama.fukui.jp

内浦公民館講座



令和5年3月11日(土)
内浦公民館1階 会議室で【ぐる~
っと内浦】を開催し、内浦11区のお
祭りや歴史等を紹介しました。講師
は公民館職員で学芸員の寺下千代美
さん。内浦についてまだまだ知らな
い事がたくさんある事に気づいても
らえるたのではないのでしょうか。こ
の講座を始めとして令和5年度(4
月以降)は年4回講座を行います。
開催日については決まり次第チラシ
でお知らせいたします。

ハーブのある暮らし教室Ⅱ ~新しい季節に備えるハーブケア~



令和5年3月12日(日)
内浦公民館2階調理実習室で【ハー
ブのある暮らし教室Ⅱ】を開催しま
した。講師はアロマセラピストの一
瀬ひろみさん。今回はハーブを使っ
たスクラブ作りとハーブオイル作り
を行いました。ハーブオイルの活用
法を聞き、マッサージに使う他にハ
ーブが持つ特性を生かして、料理に
も使える事を教えていただきました。
手浴体験では、少し熱めのお湯で
バスソルトを溶かして温まった手
に、自分で作ったスクラブを塗って
体験しました。肌のつるつる感を確
かめ合いながら、ハーブの魅力を再
確認しました。

●開館時間 午前8時30分~午後10時 ●利用時間 午前9時~午後9時30分
※夜間利用が無い場合は午後5時で閉館いたします。



内浦小中学校に、小学校に1名、中学校に5名の皆さんが入学されました。

★新入生の皆さんにこれから頑張りたい事を聞きました



べんきょうとうんどうをがんばりたいです。



中学になったら少しずつ勉強が難しくなるので、予習復習と部活のバドミントンを頑張りたいです。



クラブや数学などを頑張りたいです。

部活！頑張りたいです

部活を頑張りたいです。

国語の古文とか社会の歴史の勉強を頑張りたいです。



内浦公民館講座 アンブレラマーカー作り教室



仕上げの金具をつけている様子



色分けされたプラスチックを何種類か選び、アイロンで溶かして作りました。

令和5年3月29日(水)
内浦公民館1階会議室で【アンブレラマーカー作り教室】を開催しました。
講師はKa_Lanikai^{カーラニカイ}さん。初めにアンブレラマーカーの説明を聞きました。アンブレラマーカーを傘につける事で、ビニール傘のように目立たない傘も自分の物と分かるようになります。年間8000万本も捨てられ埋められている傘を少しでも減らしたいという思いで取り組まれている事がわかりました。色とりどりのプラスチックはゴミとは思えない綺麗さで、皆さん楽しくアンブレラマーカーを完成させました。





館長の《こーひーぶれいく》No96



今回は 伊予原 新 著『オオルリ流星群』です。

神奈川県秦野市、高校の同級生だった5人。実家の薬局を継いだが、経営が厳しい薬剤師の久志。番組制作会社を退職し、法科大学院を修了し司法試験に挑戦しようとする修。機械メーカーを退職し、3年間実家に引きこもっている和也。獣医になる夢を諦め、中学校の理科教師をしている千佳。国立天文台を退職し、秦野にもどってきた彗子（スイ子）。

国立理工系最難関大学の天文学科に進み、国立天文台の研究员になった彗子が秦野に帰ってきている。帰ってきたスイ子の真相を確かめるべく、45歳になった同級生が集まることとなったのだ。

スイ子は秦野市の丹沢山地に太陽系の果てを観測する天文台を手作りで建て、見えない星エッジワース・カイパーベルトを観測するという、久志たちはこの無謀とも思える計画に協力することになる。

久志たち5人は28年前の夏。文化祭に出展するため空き缶1万個を使って巨大なタペストリーを制作した。「あれはまさに、特別な夏だった。あんなに激しく感情が揺さぶられた季節は、この先二度と来ないだろう。」今も鮮明におぼえている。5人の他に、もう一人いた。タペストリーを作ろうと言いだした張本人の恵介だ。しかし恵介は完成する前に仲間を抜け、その1年後の夏に恵介は死んだ。

こんなはずではなかった。なんでこうなってしまったのか。そんなため息をつきながら、18歳の時に思い描いていた人生とはまるで違う、45歳の今を生きている。あの夏、恵介に何があったのか。

千佳は恵介に対し、切ない想いを抱いていた。バスケット部のエースで人気者だった恵介はその1年後、19歳で死んだ。仲間を抜けたことに対しても、その死についても、“なぜ?”という思いは千佳や久志たちの心にわだかまっていた。

天文台作りの過程で、それぞれの複雑な家庭環境や、恵介とスイ子の過去などが明らかになっていきます。彼らの真実に触れたことで、久志たちの「いま」を生きることに對する思いが変わっていきます。そして、ラストシーンで5人を待っていたのは、規模は小さいけれど、計り知れないほど大きな価値のある奇跡だったのです。

ノスタルジーを共有するだけでなく、前向きで希望に満ちた感動が読者の胸にも満ち溢れてきます。

作中には、ブレッド&バター「あの頃のまま」、シュガー・ベイブ、はっぴいえんど、そして松任谷由実「ジャコビニ彗星の日」といった1970~80年代ポップスが登場し、その楽曲が懐かしく蘇ってきます。



「ふさげんなよ、恵介！ お前何やってんだよ！ 何勝手に一人で死んでんだ！」

「ずるいぞ恵介！ ちゃんと俺たちと一緒に45になって、悩んだり、泣いたりしろよ！ 悪いことばっかじゃないぞ。見ろよ、この天文台。すげえだろ。俺たちで作ったんだぞ。こうやって、あの夏みたいに、みんなで一緒に…」